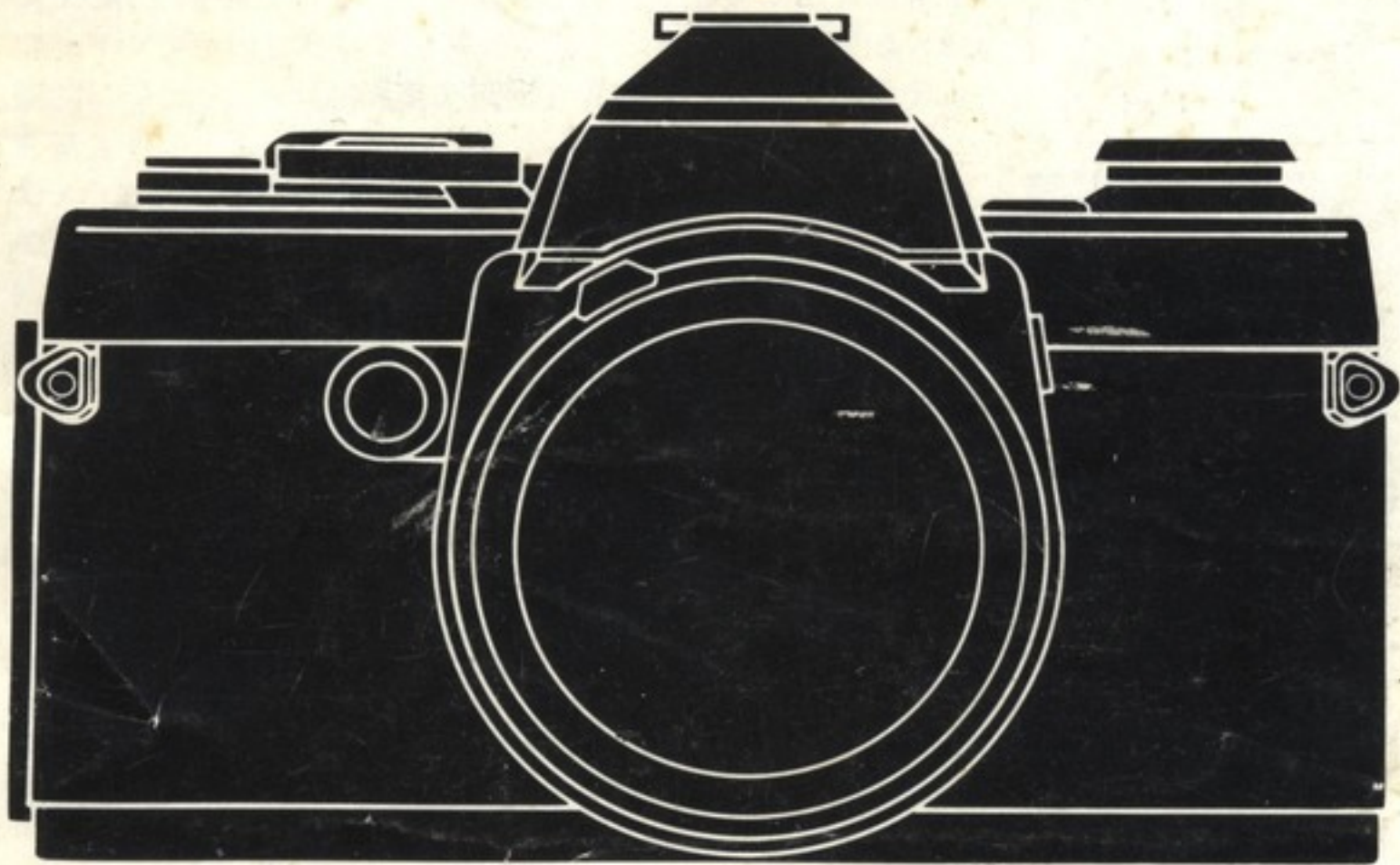


MINOLTA XG-E



使用説明書

ご使用前に必ずお読みください

ミノルタXG-Eをお買上げいただきありがとうございます。
XG-Eは、絞り優先方式の自動露出撮影のできる小型・軽
量高級一眼レフカメラです。

「オートワインダーG」を装着すると、1秒間に約2コマの自
動巻上げが可能となります。また、「オートエレクトロフラッ
シュ200X」を装着すると、充電完了信号がカメラに入力され、
ファインダー内LEDで点滅表示し、シャッターを切ると自
動的にフラッシュ同調速度で露出されるフラッシュシステム
を備えています。

カメラおよび専用付属品は、操作性と便利さを最優先に最新
の電子工学技術を駆使して設計しております。

初めてこのカメラをお使いになる方は、一般的な撮影手順を
示した基本操作編をお読みください。さらにこのカメラの性
能を十分ご活用いただくために、使用説明書を最後までお読
みください。カメラの機能をよく理解し、カメラに慣れてい
ただけば、カメラの活用範囲がグッと広がるばかりでなく、
撮影が一層楽しいものとなります。

この使用説明書の写真および内容説明は、MDロッドコール50
mm F1.4レンズ付になっていますが、他のMD/MCロッドコー
ルレンズおよびブラックをお求めの方も使用方法は同じです。
この使用説明書はXG-Eの使い方が中心になっていますの
で、撮影上の一般的な知識は別の参考書をお読みください。

ミノルタXG-Eの機能を活用していただくためには当社独自
のノウハウによりボディ特性に適合するように設計・製造
管理されている交換レンズ及び付属品のご使用をおすすめし
ます。

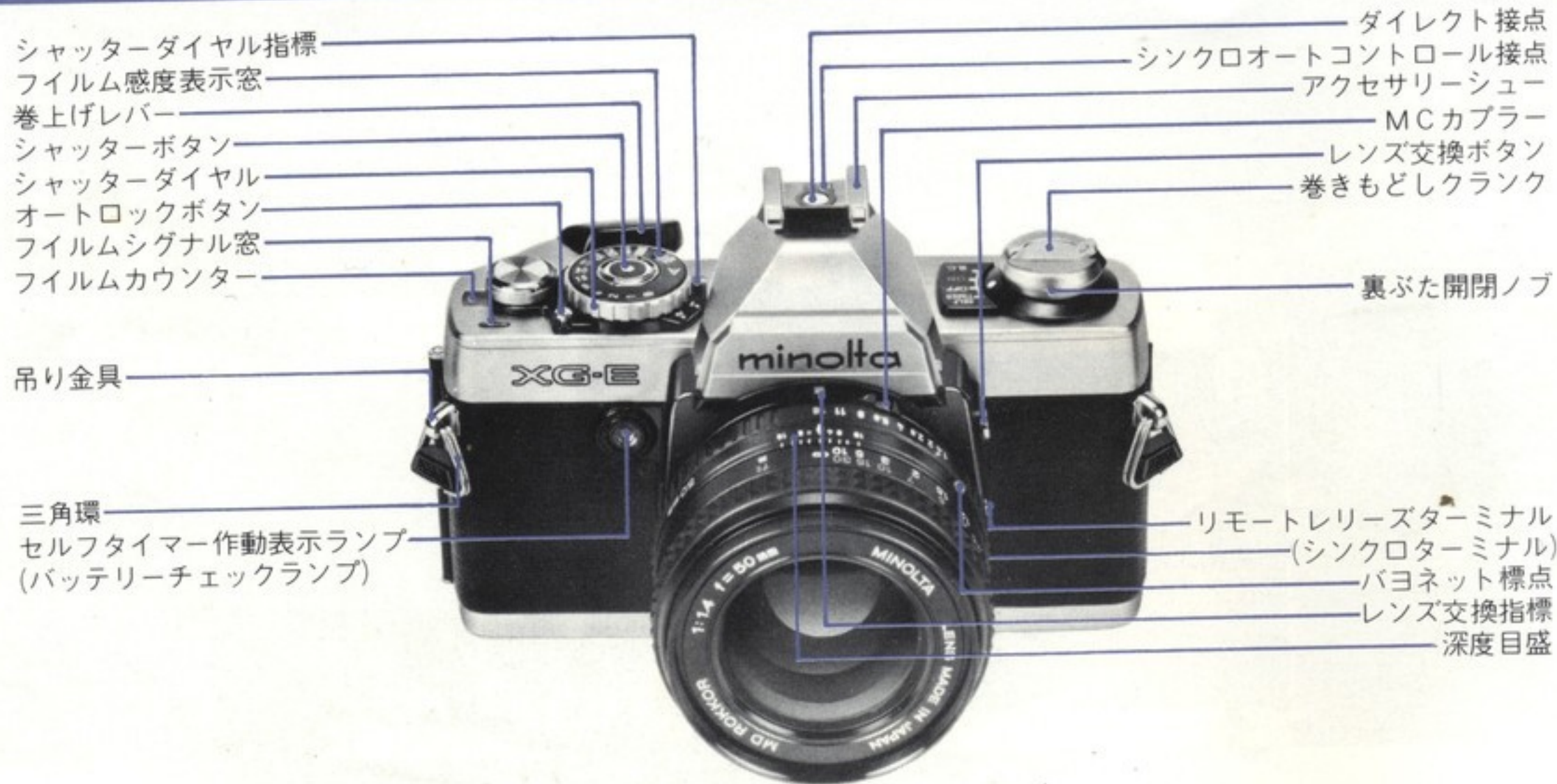
当社製品以外の交換レンズまたは付属品を単に装着できると
いうだけでお使いになる場合、どのようなことが起こるか当
社では予測できません。

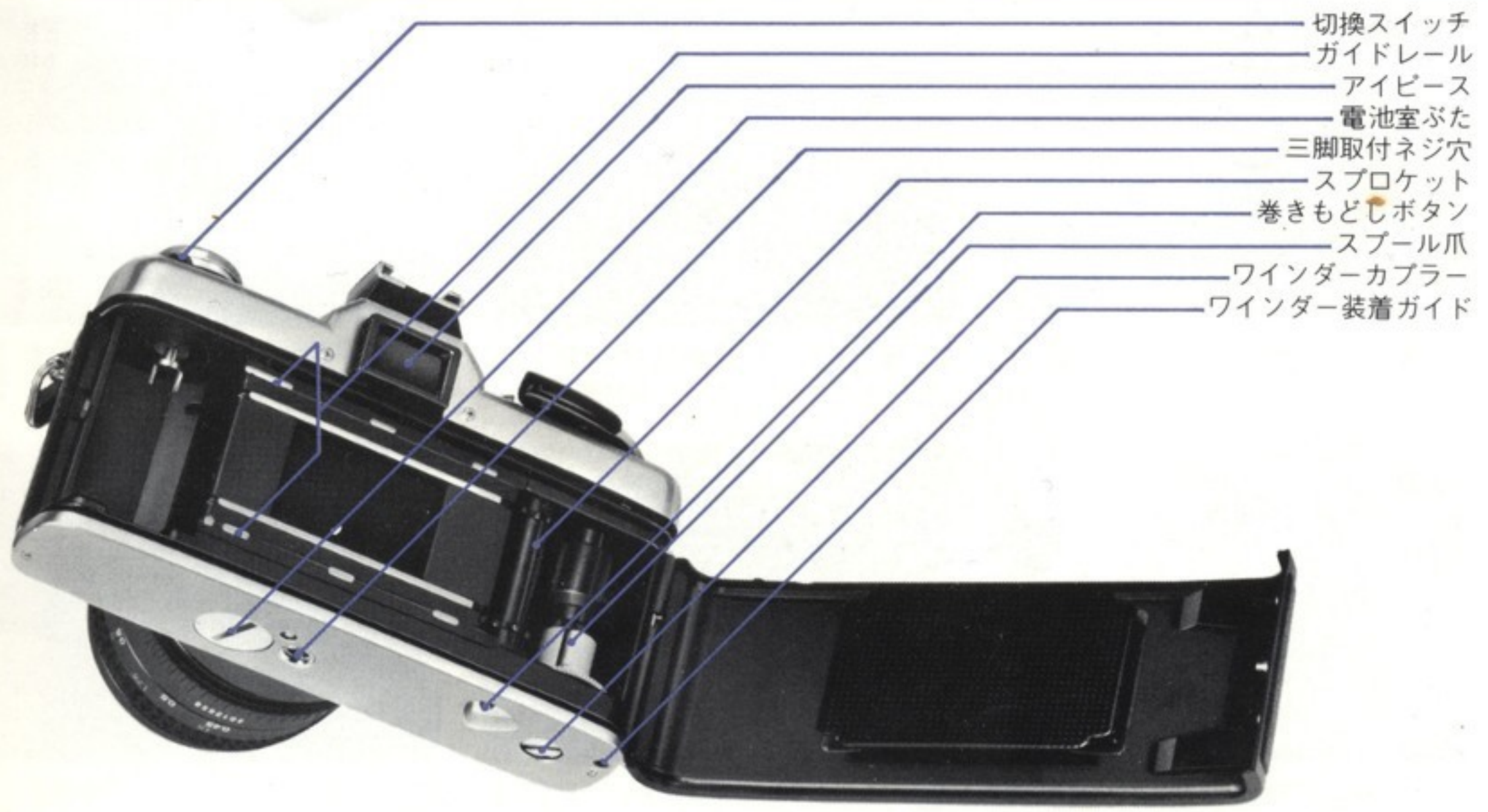
目次

各部の名称	6	●応用操作編	27
自動露出撮影のしかた早わかり	8	自動露出撮影の応用例	28
●基本操作編	10	露出補正について	30
レンズの着脱	11	セルフタイマー	32
電池について	12	フラッシュ撮影	34
切換スイッチについて	14	マニュアル撮影	38
シャッターボタン(測光スイッチ)について	15	赤外線撮影(レンズのRマークについて)	39
フィルムに入れ方	16	付属品および交換レンズを使用する場合の撮影のしかた	40
フィルム感度目盛の合わせ方	18	深度目盛	41
メモホルダー	19	ストラップの取り付け方	42
自動露出撮影のしかた	20	ケースの着脱	43
ファインダーについて	21	●参考編	44
ピント合わせ	22	専用アクセサリ	45
シャッターの切り方	23	カメラの手入れと保存の方法	49
フィルム巻上げ	24	おもな性能	50
フィルムの巻きもどし	25		



各部の名称





- 切換スイッチ
- ガイドレール
- アイピース
- 電池室ぶた
- 三脚取付ネジ穴
- スプロケット
- 巻きもどしボタン
- スプール爪
- ワインダーカブラー
- ワインダー装着ガイド

自動露出撮影のしかた早わかり

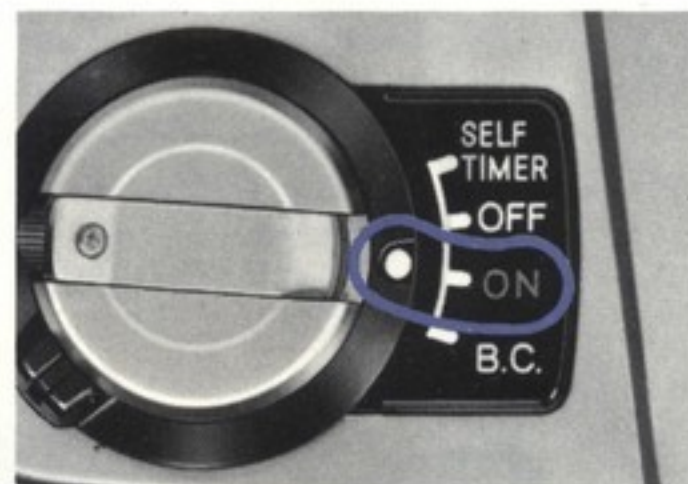
●取扱いの詳細は各参照ページをご覧ください。



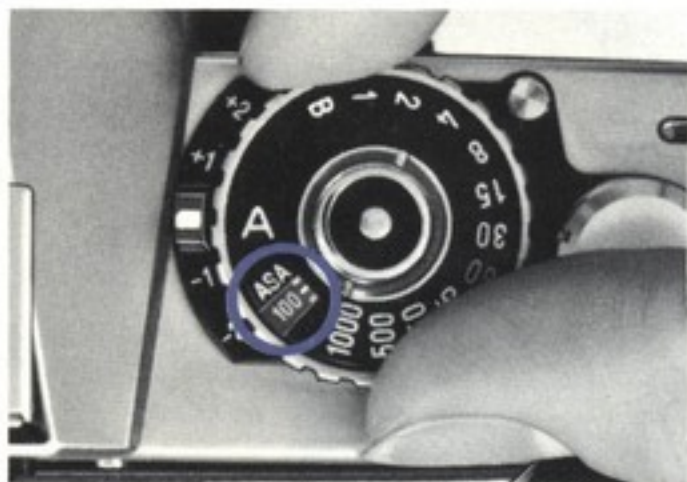
1 電池を入れます。(P12参照)



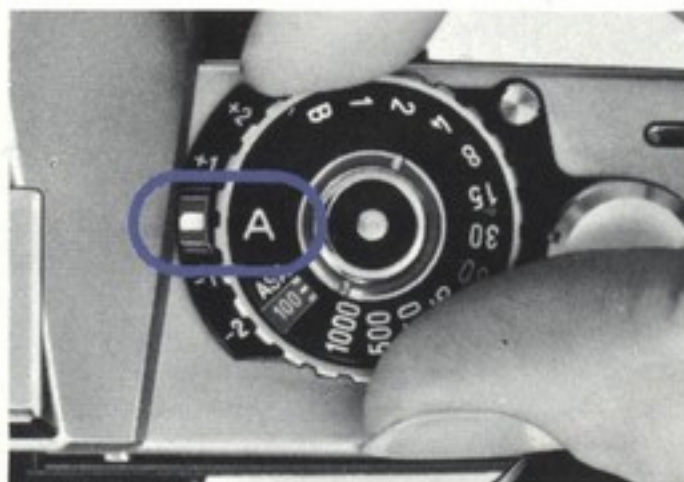
2 電池をチェックします。(P13参照)



3 切換スイッチをONにします。
(P14参照)



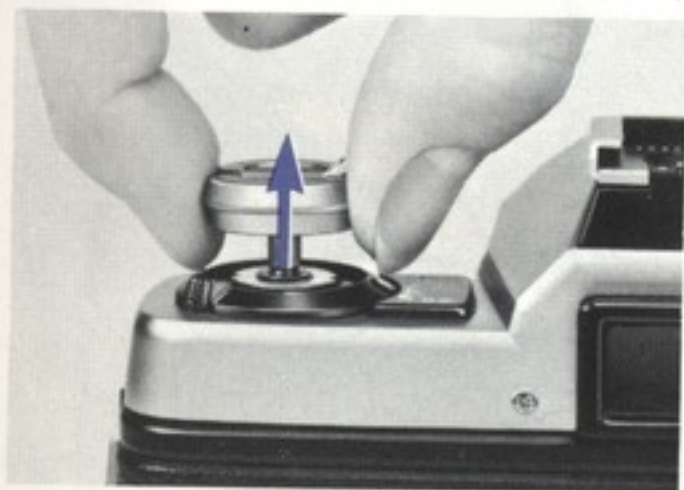
7 フィルムの感度を合わせます。
(P18参照)



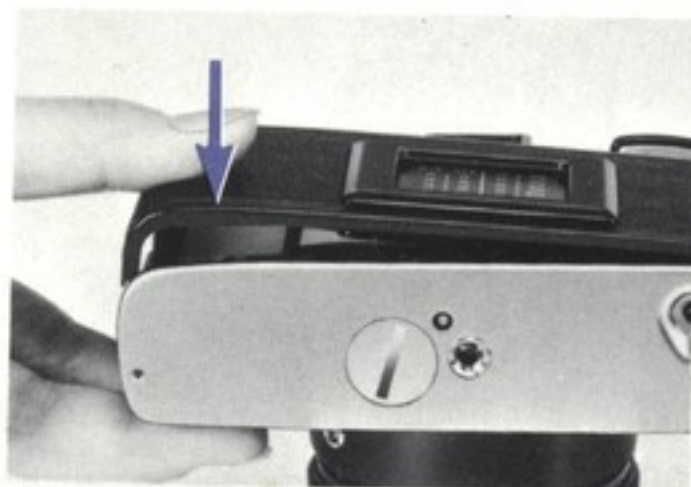
8 シャッターダイヤルをA (AUTO)
にセットします。(P20参照)



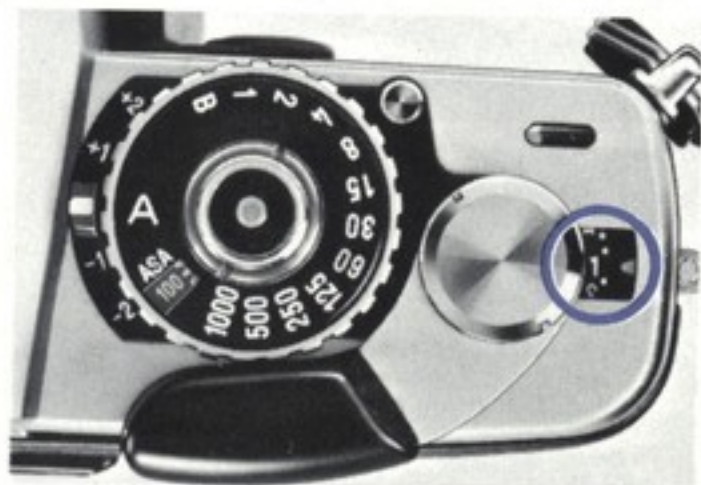
9 絞りをセットします。(P20参照)



4 裏ぶたをあけます。(P16参照)



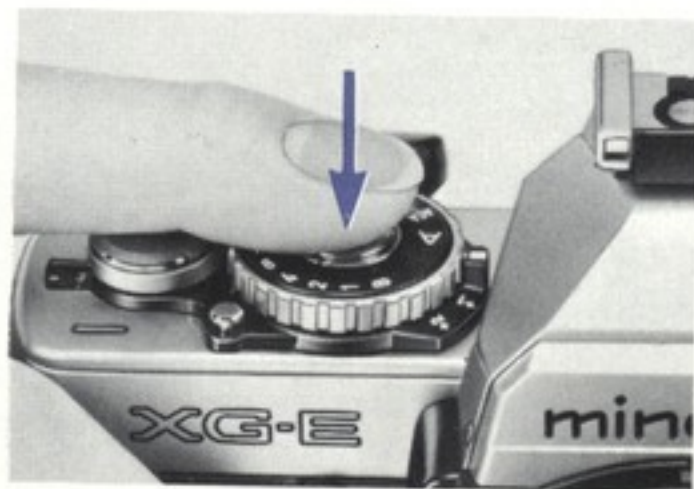
5 フィルムを入れ裏ぶたをとじます。(P17参照)



6 巻上げレバーを操作しフィルムカウンターを1にします。(P17参照)



10 ピントを合わせます。(P22参照)



11 シャッターを切ります。(P23参照)



12 規定枚数の撮影が終了したらフィルムを巻きもどして取り出します。(P25参照)

基本操作編



レンズの着脱

1. レンズの取り付け方



1 ボディキャップを矢印方向に回してはずします。



2 レンズのパヨネット標点(赤点)をボディのレンズ交換指標(赤指標)に合わせてはめこみ、時計方向にカチッとロックがかかるまで回して取り付けます。

2. レンズの取りはずし方



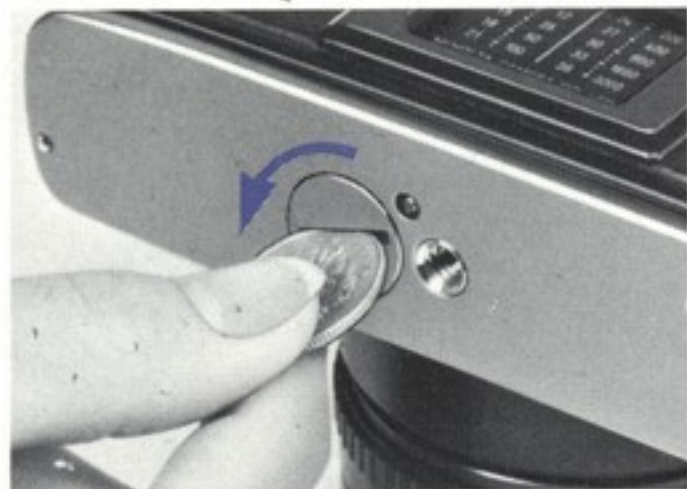
レンズ交換ボタンを押しながら反時計方向に止まるまで回してから、前方に引き出してはずします。

- 取りはずしたレンズにはレンズキャップ、後キャップを取りつけ、ゴミやホコリから守ってください。また、レンズ面にキズや指紋をつけないように注意してください。

電池について

電池の入れ方

電池はJIS G-13型銀電池(1.5V) 2個を使用します。

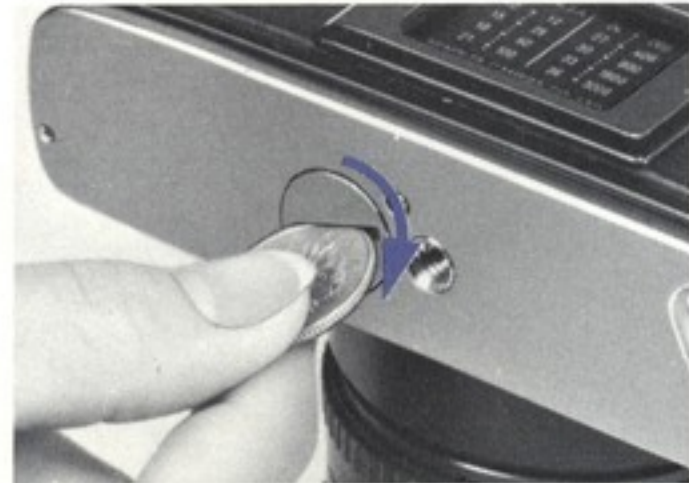


1 電池室ぶたをコイン状のもので反時計方向に回してはずします。



2 電池室ぶたの極性表示にしたがって銀電池2個を入れます。

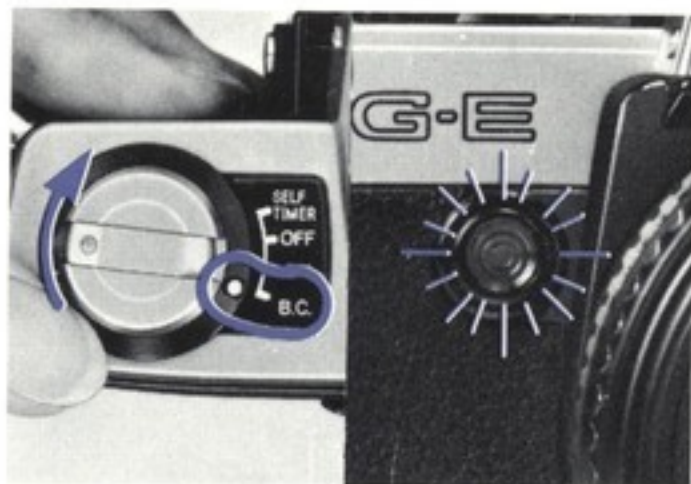
- 電池を入れるとき、電池の表面に汗や、あぶらをつけないようにしてください。よごれたまま使用すると接触不良の原因になりますので、よごれがあるときはかわいた布などできれいにふきとってください。



3 電池室ぶたを時計方向に回して、しっかりとねじ込みます。

電池チェックのしかた

カメラをしばらく使わなかったときとか、新しく電池を入れたときには、バッテリーチェックで電池の性能をチェックしてください。



切換スイッチを矢印の方向にいっぱいに戻し、白い指標をB.C.に合わせます。このときカメラ正面のバッテリーチェックランプが点灯すれば電池の性能は十分です。もしランプが点灯しない場合は、電池を2個とも新しいものと交換してください。

★次のような場合は、シャッターが切れませんので、各参照ページの操作をしてください。

- 同じ大きさ、形状の水銀電池が市販されていますので、買い換えのときは必ずJIS G-13型銀電池と指定してください。
- 海外では下記の電池がG-13型銀電池に相当します。

アメリカ	EVEREADY	S-76
	RAY-O-VAC	RS-76
西ドイツ	VARTA	No.7301

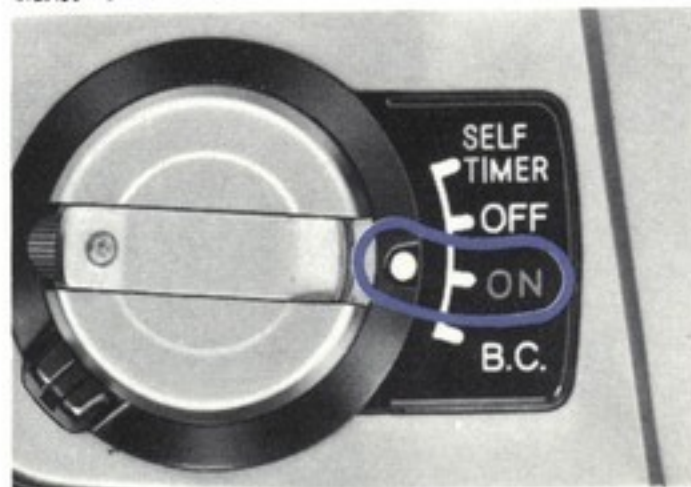
- 電池の極性をまちがえて入れたとき → 電池を正しく入れなおしてください。(P12参照)
- 電池が入っていないとき、または電池の性能が低下しているとき → 新しい電池を入れてください。(P12参照)
- 切換スイッチがOFFのとき → 切換スイッチをONにしてください。(P14参照)
- 連動外警告LED (▲) が点灯しているとき → 絞りを絞り込んでください。(P20参照)

切換スイッチについて

切換スイッチは次のような機能になっています。

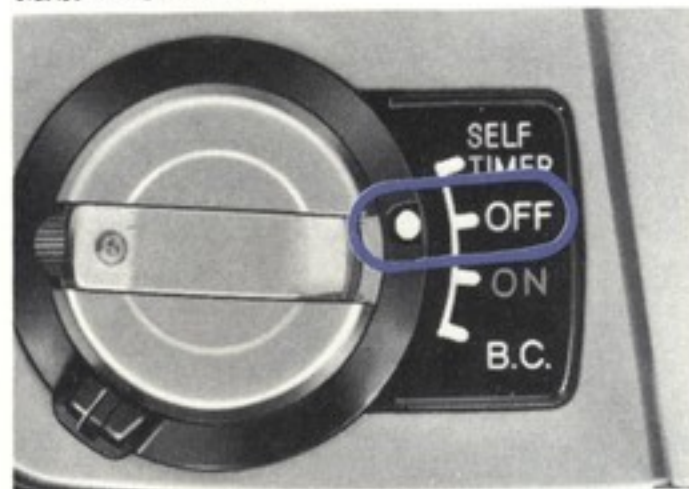
- ① SELF TIMER は作動時間約10秒のセルフタイマーがセットされます。(P32参照)
- ② OFFは電源が切れ露出表示LEDは点灯しません。またシャッターボタンを押してもシャッターは切れません。
- ③ ONはカメラがいつでも作動できる状態になります。
- ④ B.C. はバッテリーチェックのことです。カメラ正面のバッテリーチェックランプで電池の性能をチェックします。

撮影するとき



- 切換スイッチをONにしたとき、シャッターボタンに指が軽く触れると測光スイッチが入りファインダー内にLEDが点灯します。
- ONのままでも測光スイッチが入らない限り電池の消耗はありません。

撮影しないとき

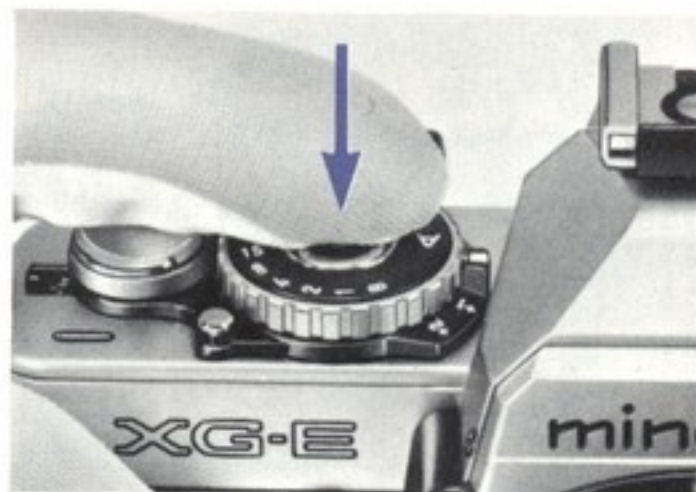


- 撮影をしないときには不用意なリリースを防ぐためにOFFにしてください。

シャッターボタン(測光スイッチ)について



XG-Eはシャッターボタンに軽く指が触れると測光スイッチがONになります。このときセットしてある絞り値に対する適正なシャッター速度がファインダー内にLED(●)で表示されます。



手袋など指をおおうものをはめているときは、シャッターボタンを少し押すと測光スイッチがONになります。

- ★低温度下で使用したり、指が極度に乾いていたりするときは、シャッターボタンに触れても表示が出ないことがあります。そのときはシャッターボタンを少し押してください。
- ★シャッターボタンの測光スイッチの面によごれがある場合は、シャッターボタンに指が触れても測光スイッチが入らないことがあります。よごれている場合は、清けつな布などできれいにふきとってください。

フィルムに入れ方

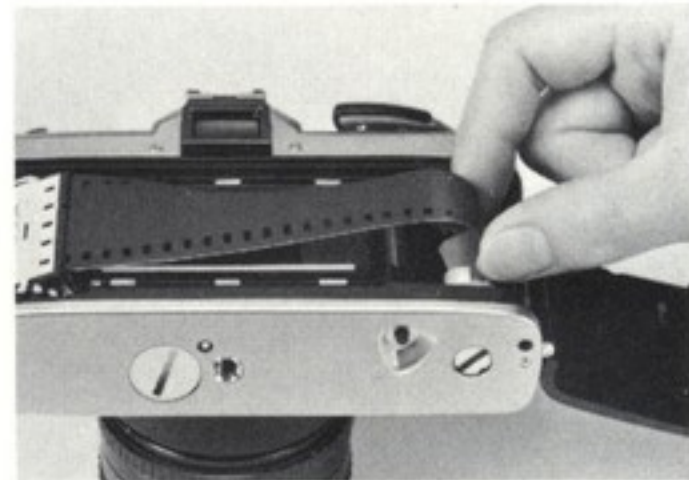
フィルムは市販のパトローネ入り35mmフィルム(12, 20, 24, 36枚撮りなど)を使います。フィルムの出し入れは直射日光の当たらない場所で行なってください。



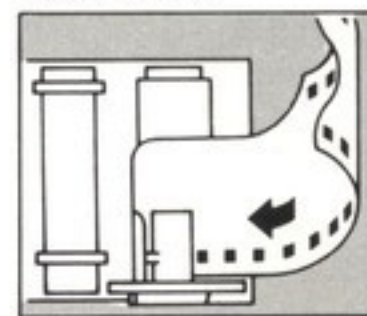
1 裏ぶたをあけます。
裏ぶた開閉ノブを引き上げ、さらに強く引けば裏ぶたが開きます。



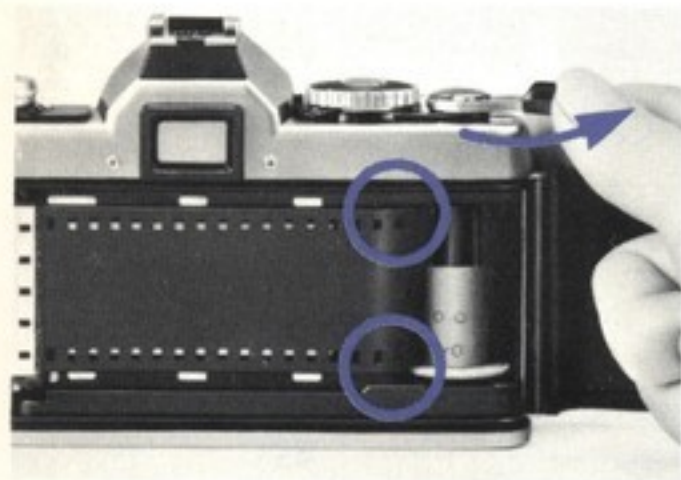
2 フィルムを入れます。
パトローネを写真のように入れ、裏ぶた開閉ノブを元のようにもどします。もどらないときは、左右に少し回しながら押し込めば簡単にはいります。



3 フィルムの先を差し込みます。
フィルムをパトローネから少し引き出し、フィルムの先端をスプール爪に差し込みます。

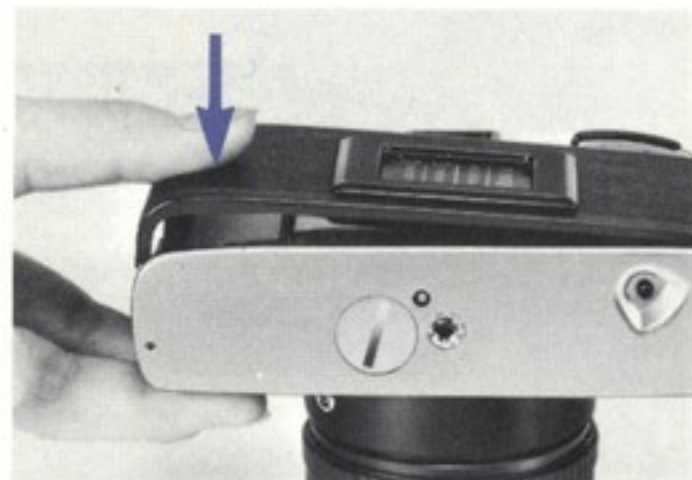


● フィルムをスプール爪に差し込むときは、上の写真またはイラストに示すように正しく差し込んでください。



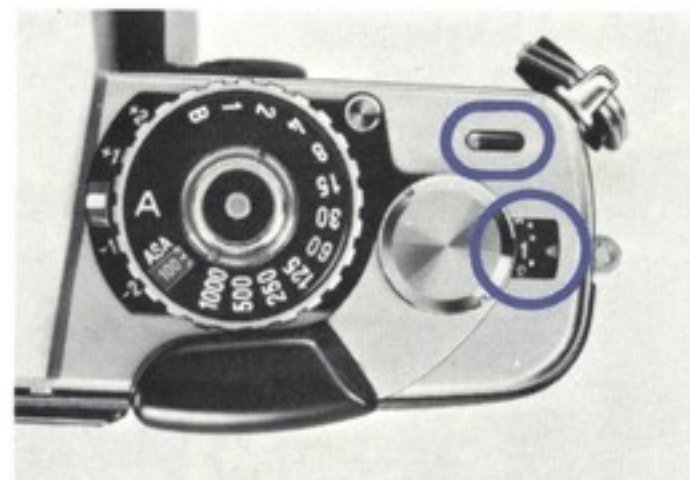
4 フィルムを少し巻上げます。
 フィルムのパーフォレーション（両側の穴）がプロケットの歯にかみ合うまで巻上げレバーを操作します。

- フィルムがはいっているか、はいっていないかの確認はフィルムシグナルを見ればひと目でわかります。



5 裏ぶたを静かに閉じます。
 フィルムのパーフォレーションがスプロケットにかみ合っているか、また、上下のガイドレールの上にフィルムが正しく置かれているかを確認してから裏ぶたを静かに閉じます。

- ★フィルムが装てんされているかを巻きもどしノブを回して確認すると、画面間隔が不ぞろいになることがあります。



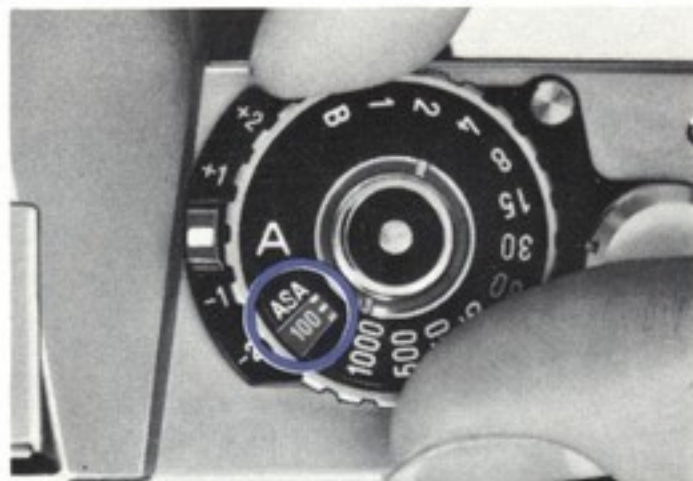
6 フィルムカウンターを1にします。
 フィルムを巻上げてシャッターを切りもう一度巻上げると、フィルムカウンターは1になり撮影可能状態となります。このとき、フィルムシグナルが窓の左側に出てくれば、フィルムは正しく巻取れています。フィルムを巻上げるにしたがって、フィルムシグナルは左側から右側へ移動します。

- フィルムカウンターが1になるまでは、シャッターダイヤルをマニュアルにセットしてシャッターを切ってください。

フィルム感度目盛の合わせ方

フィルムを入れた後は、必ず使用するフィルムのASA感度をセットしてください。

フィルムのASA感度は、フィルムの外箱に と記入されていますので、その数値をセットします。



シャッターダイヤルの外周リングを引き上げながら回して、フィルム感度表示窓に使用するフィルムのASA感度をセットします。

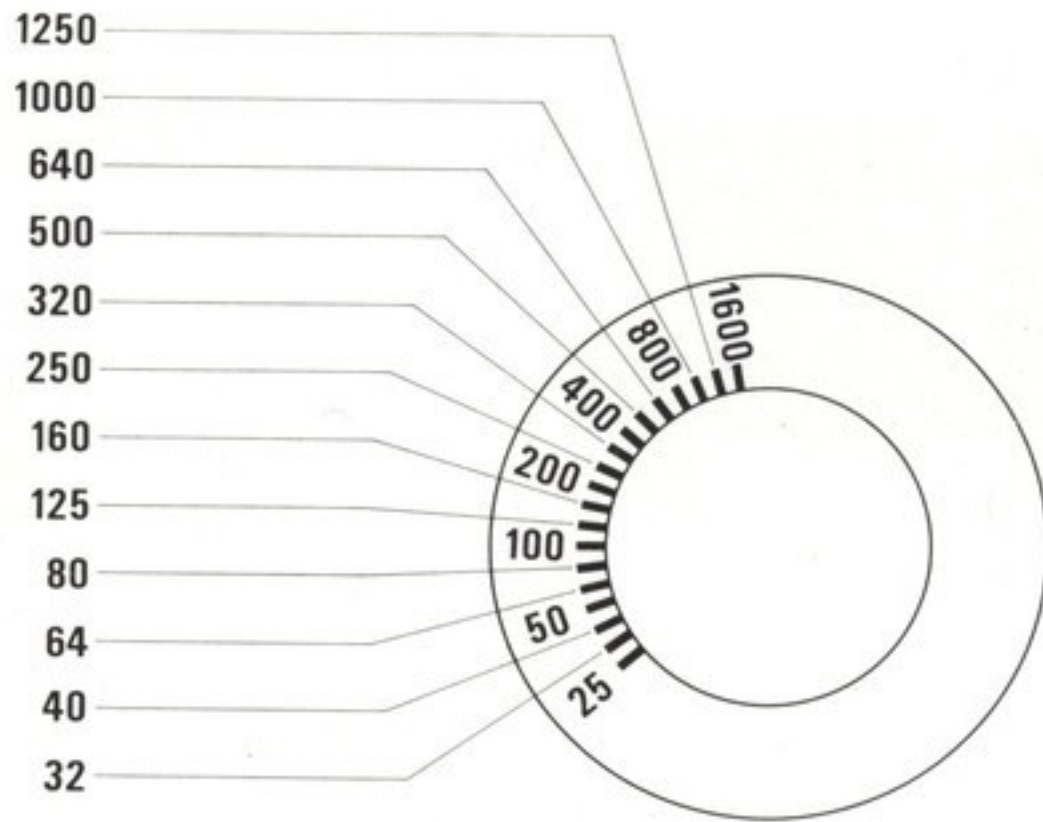
たとえばASA100のフィルムなら。フィルム感度表示窓に、100をセットします。

- フィルム感度目盛はフィルム感度表示窓の中央に正確に合わせてください。

★フィルム感度のセットは露出の基本となるものですから、間違いのないよう確実にセットしてください。

メモホルダー

使用フィルムの箱のふたを切り取りメモホルダーに差し込んでおけば、撮影中のフィルムの種類や枚数がひと目でわかりますので、ご利用ください。



- フィルム感度の数値は上記の通りになっています。



自動露出撮影のしかた

ミノルタXG-Eはシャッターダイヤル指標にA(AUTO)を合わせると、セットした絞りと被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に調節され、適正な露出がえられる絞り優先方式の自動露出撮影ができます。



- 1 シャッターダイヤルを回してシャッターダイヤル指標にAを合わせます。
 - シャッターダイヤルはAの位置でロックがかかります。



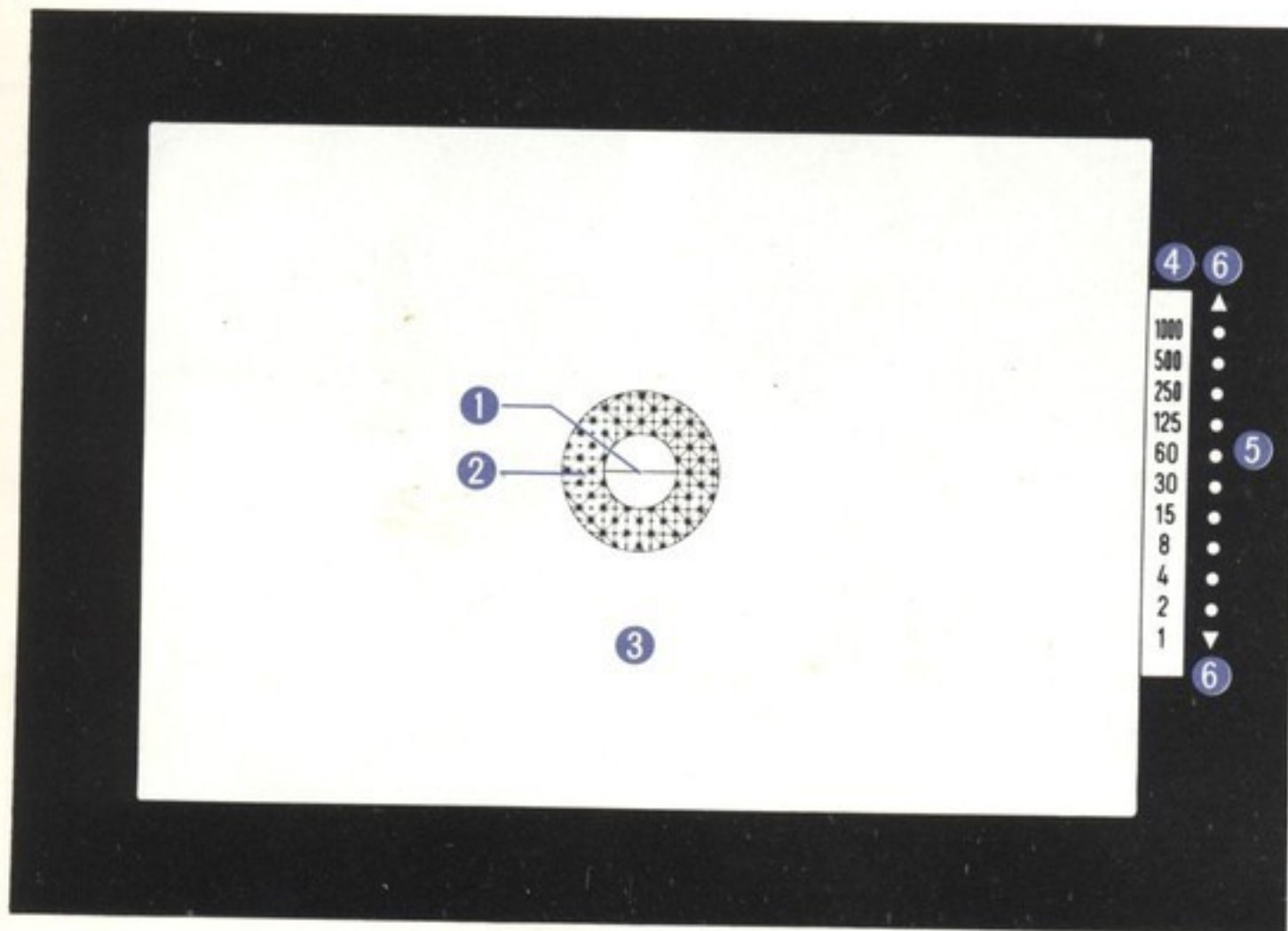
- 2 レンズの絞り値を希望する絞り値にセットします。カメラを被写体に向ければシャッター速度は自動的に決まり、自動露出撮影ができます。

- ファインダー内に▲のLEDが点灯しているときは、シャッターボタンを押してもシャッターは切れません。絞りを絞り込んで▲のLEDが点灯しないようにしてください。

- シャッター速度は1秒から1/1000秒まで無段階に自動的に決まります。連動範囲はF1.4レンズでASA100のときEV2~17です。またASA25のときはEV1~15、ASA400のときはEV4~19となります。ただし、EV19はF22・1/1000秒の組み合わせが可能な場合で、最小絞りがF16の標準レンズではEV18(F16・1/1000秒)までが連動範囲となります。

★接眼レンズから目を離して撮影する場合、ファインダーからの逆入光を防止するため、必ず付属のアイピースキャップをアイピースの両側のみぞにはめ込んでください。

ファインダーについて



- ① スプリットイメージ
ピントを合わせるときに使用します。
- ② マイクロプリズム
ピントを合わせるときに使用します。
- ③ マット面
スプリットにカゲリが出るときのピント合わせは、マット面で行ないます。
- ④ シャッター速度目盛
- ⑤ 露出表示LED
自動露出撮影時のシャッター速度をLEDの点灯で表示します。LEDが同時に2個点灯したときは中間のシャッター速度を表わします。
- ⑥ 連動外警告LED
▲のLEDが点灯したときは、1/1000秒以上のシャッター速度を表わしシャッターは切れません。
▼のLEDが点灯したときは、1秒および1秒以上の長秒時を表わします。

ピント合わせ

ピントはファインダーをのぞきながらレンズの焦点調節リングを回して中央部のスプリットイメージまたはマイクロプリズムまたは周辺のマット面で合わせます。

スプリットイメージを使用する場合

レンズの焦点調節リングを回してスプリットイメージの上下の像がズレなくなるようにします。ピントが合っていないとスプリットイメージの上下で像が左右にズレます。

マイクロプリズムおよびマット面を使用する場合

レンズの焦点調節リングを回して、マイクロプリズムでの像のちらつきがなくなるようにします。また、マット面を使用する場合は像がはっきり見えるようにします。ピントが合っていないと、マイクロプリズムでは像がちらつき、マット面では像がボケます。

ピントが合っている状態



- 開放F値の大きい(暗い)レンズ、あるいは接写のときなどは、中央のスプリットやマイクロプリズムではカゲリが生じてピントが合わせにくいことがあります。そのときは周辺のマット面でピント合わせをしてください。

ピントが合っていない状態

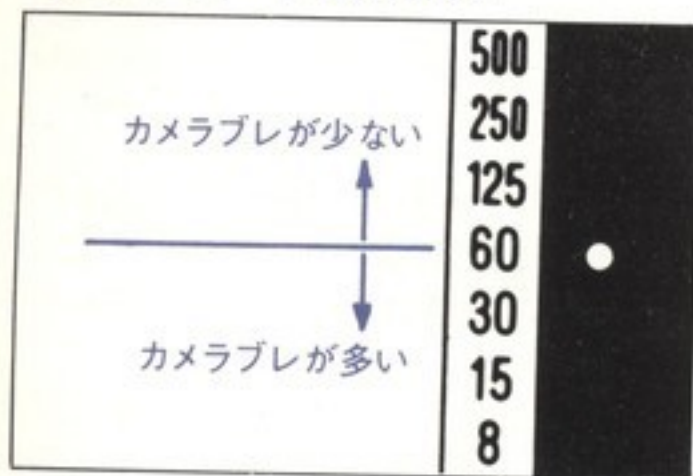


★撮影されたフィルムをサービスサイズにプリントしたり、リバーサルフィルムをマウントされる場合、その仕上がり画面は原板より若干せばめられますので、撮影に際してはご配慮ください。

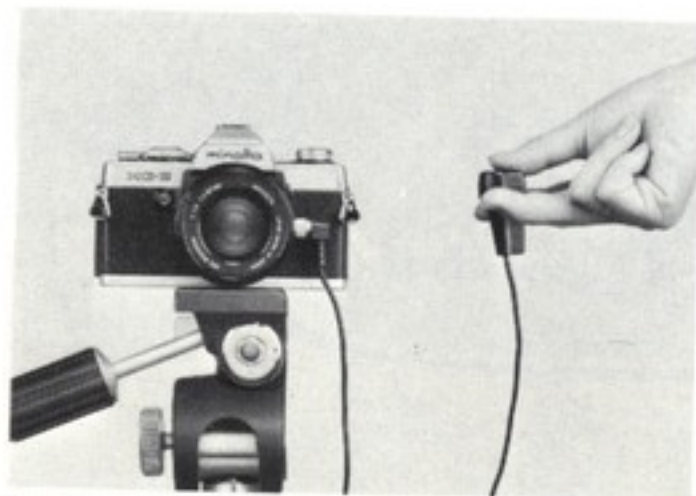
シャッターの切り方

シャッターボタンを押すと、シャッターが開いてフィルムを露光します。

シャッターボタンは、カメラブレを起こさないように指先の腹で静かに押してください。XG-Eのレリーズは電磁レリーズを採用していますので、よりなめらかにシャッターが切れます。



一般的に50mm標準レンズ装着時、手持ち撮影では1/60秒以上の高速シャッターをご使用ください。1/30秒より低速のシャッター速度ではカメラブレが起こりやすいので、手持ち撮影はなるべく避けて、カメラを三脚などで固定してシャッターを切ってください。



XG-Eは電磁レリーズを採用していますので、リモートコードが使用でき、遠隔操作のときに便利です。

- カメラを三脚に取りつけて撮影するときは、リモートコードをご使用ください。

★セルフタイマーを使うときや接写・複写などの場合のように、ファインダーをのぞかずに自動露出撮影するときは、アイピースキャップをしてファインダーからの逆入光を防いでください。(P33参照)

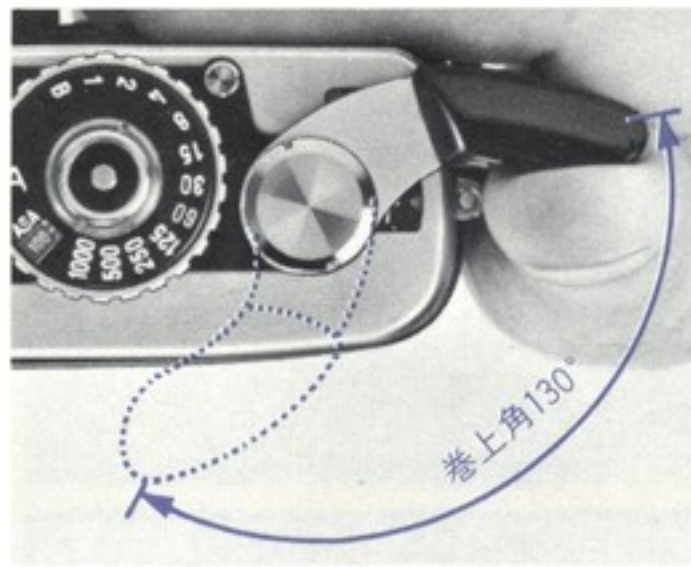
★XG-Eの三脚ネジ穴の深さは5.8mmです。三脚を使用するとき、三脚取付ネジ穴の深さより長い三脚ネジを使用すればカメラの内部機構を破損するおそれがありますのでご注意ください。

フィルム巻上げ



1 巻上げレバーを格納位置から軽く引き出します。

- 指がかけやすい状態となり、巻上げが迅速にでき、何枚も連続して写すときにも便利です。



2 巻上げレバーに指をかけ、右方へ止まるまで回します。

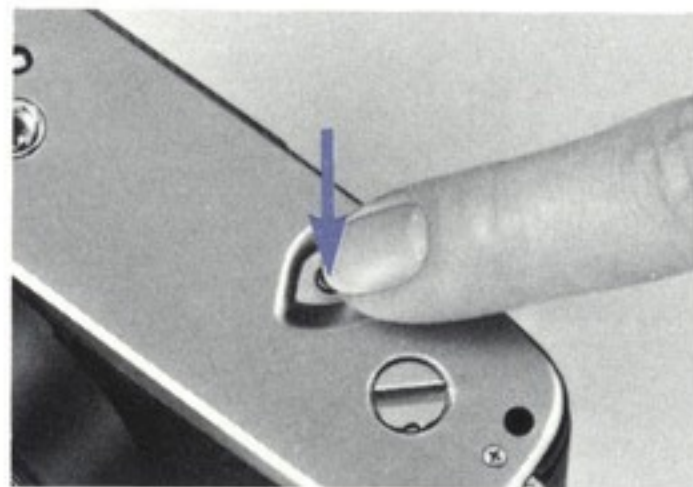
- これで、フィルムが1コマ分送られ、フィルムカウンターが1目盛進みます。

- 巻上げレバーは一作動式ですので小刻み巻上げはできません。最後まで巻上げていないときはシャッターは切れません。
- シャッターボタンを押したまま巻上げると、巻上げレバーが元にもどると同時にシャッターが切れます。

★フィルムの終りで、巻上げレバーが途中で動かなくなったときは無理に巻上げないでください。無理に巻上げるとフィルムが切れてしまうこともあります。P25の要領で巻きもどしてください。

フィルムの巻きもどし

撮影の終わったフィルムは次の要領で巻きもどして、取り出してください。



1 カメラ本体の下側にある巻きもどしボタンを押します。

XG-Eに装着するとフィルム巻上げが自動的にできるオートワインダーGが専用付属品として用意されています。撮影者は巻上げ操作から解放されますので、作画に専念できるばかりでなく、カメラは常にフィルム巻上げ完了状態で停止しており、シャッターが切れるとすぐに次の巻上げが行なわれますので、機を逃がさず撮影ができ、シャッターボタンを押し続けると1秒間約2コマの連続撮影もできます。

詳しくはオートワインダーGの使用説明書をご覧ください。



2 巻きもどしクランクで巻きもどします

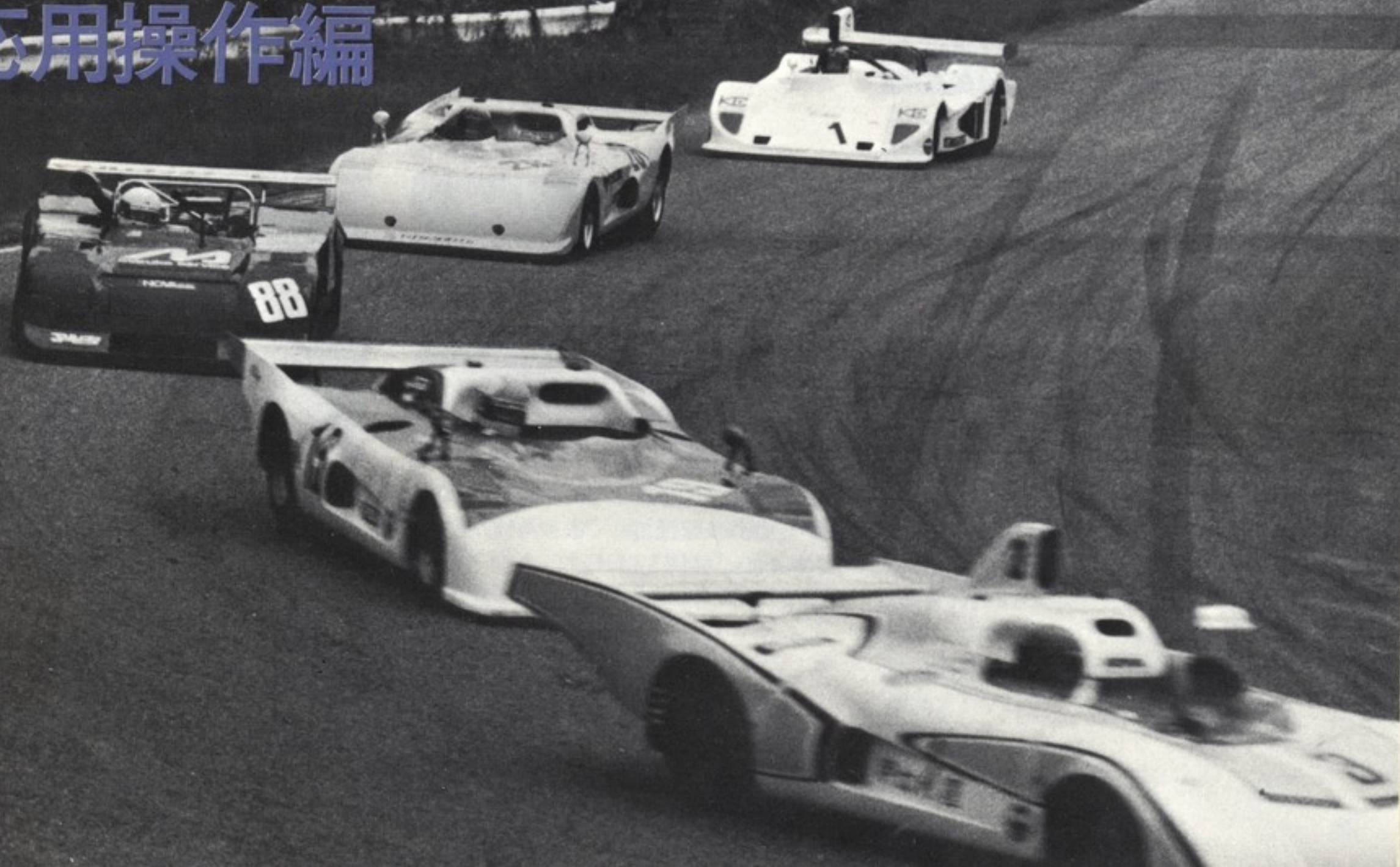
巻きもどしクランクを起こし、巻きもどしクランクにある矢印方向に回しますと、フィルムはパトローネ内に巻きもどされます。このとき、フィルムシグナルはフィルムが巻きもどされるにしたがって、右側から左へ動きます。フィルムの巻きもどしが完了すれば、フィルムシグナルが見えなくなります。



3 裏ぶた開閉ノブを引き上げて裏ぶたをあけ、パトローネを取り出します。

- ★巻きもどしが終るまで（フィルムシグナルが出ているとき）裏ぶたを絶対にあけないでください。誤ってあければフィルムの一部が感光してしまいます。
- ★取り出したパトローネは明るいところへ放置しないでください。パトローネは完全にしゃ光できるものは少なく、長く放置すると感光することがあります。

応用操作編



自動露出撮影の応用例

1. 絞りを先に決めて撮影するとき

作画の目的に応じて絞りを先に決めれば自動的に適正露出となるシャッター速度でシャッターが切れます。このとき、絞り値により、被写界深度が変わり、背景のボケる状態が変化します。

(P41参照)



たとえば絞りを開けば被写界深度が浅くなり、背景が整理されて主被写体が強調されます。(作例1) F1.4



逆に絞りを絞り込むと深度が深くなり背景もシャープに写ります。(作例2) F8

2. シャッター速度を先に決めて撮影するとき

ミノルタXG-Eは絞り優先方式の自動露出撮影のできるカメラですが、次のような方法でシャッター速度を先に決めて撮影することもできます。

被写体の動きを止めて撮影したいとき



このときはシャッターを高速で切ります。たとえばシャッター速度を1/500秒で撮影したいとき、ファインダー内のLEDが500の横に点灯するように絞りリングを動かして撮影します。

(作例1) 1/500秒

動きの速さを表現したいとき

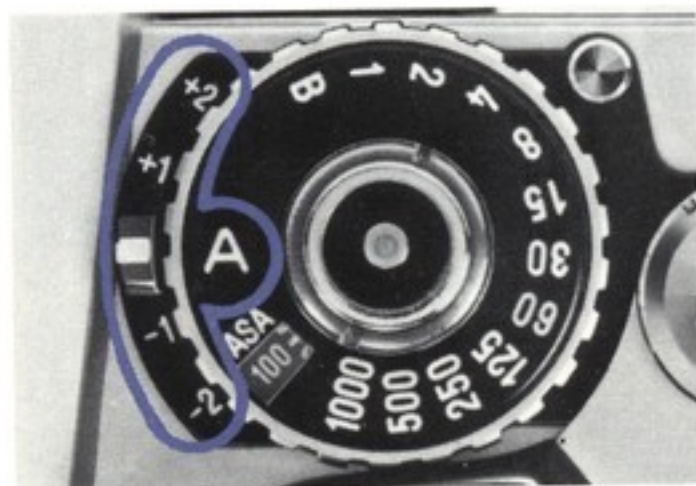


意識的にシャッター速度を低速で切ると被写体ブレを起こし流動感のある面白い表現になります。たとえば、シャッター速度を1/2秒で撮影したいとき、ファインダー内のLEDが2の横に点灯するように絞りリングを動かして撮影します。

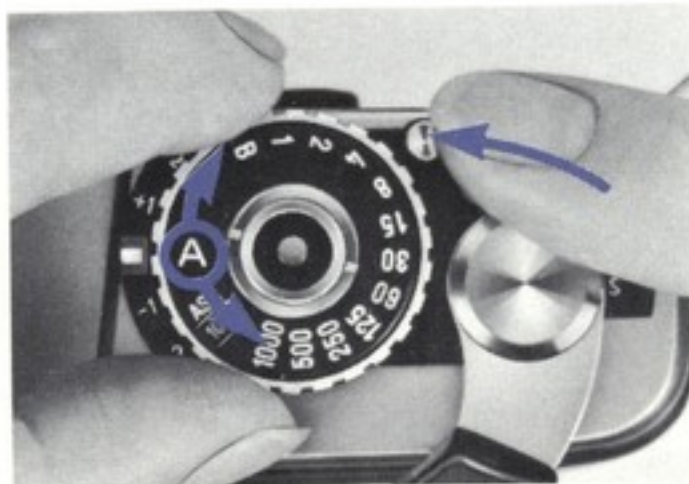
(作例2) 1/2秒

露出補正について

露出補正の使い方



自動露出撮影で主要被写体の周囲が非常に明るかったり（逆光など）、暗かったり（舞台など）する場合、また、意図的にハイキーやローキーの写真を撮影する場合に露出の補正を行いません。露出補正は、標準値（シャッターダイヤル指標にAをセットした時）に対してオーバー側、アンダー側とも2段階まで補正できます。



オートロックボタンを押しながら、標準値より露出オーバーにしたいときは十側へ、露出アンダーにしたいときは一側へ回します。

- シャッターダイヤル指標を中心に十側、一側とも1/2段づつクリックがありますが、クリックのない中間も無段階に使用できます。
- +2、+1、-1、-2という数字は絞り目盛またはシャッター速度目盛の1段、2段の違いを表わします。

補正しないとき



★露出補正はシャッターダイヤルのAが+2または-2の範囲を越えないようにしてください。範囲外ですと露出補正ができなくなります。

露出補正の例

補正したとき (+2)



被写体	露出補正量
逆光のポートレート	+1~+2
空のたくさんはいた風景	
雪上の人物	+1 (画面の中の雪や海の部分が少ないときは、補正しなくてもかまいません。)
海をバックに入れた人物	
スポット光を浴びた人物	-1~-2
バックが暗いとき	
白い紙に黒い文字の複写	+1~+2 (この場合、被写体によって異なりますので、実際にテスト撮影してから補正値を決めることをおすすめします。※)

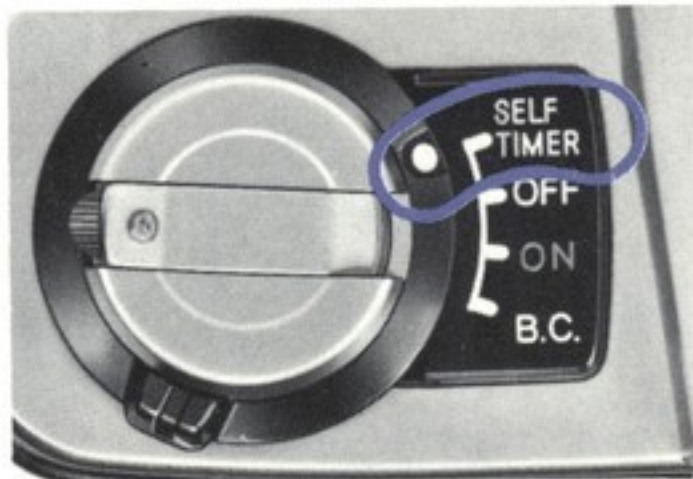
★露出補正の撮影後は必ずシャッターダイヤル指標にA(AUTO)を合わせてください。

※特に複写用フィルムの場合は、撮影状況や現像条件、フィルム乳剤番号によって結果が変わりますので+2の露出補正でも補正しきれない場合があります。実際にテスト撮影して確認してから撮影することをおすすめします。

★R60(整色用)のフィルターを取り付けて撮影する場合は+½段の露出補正をしてください。

セルフタイマー

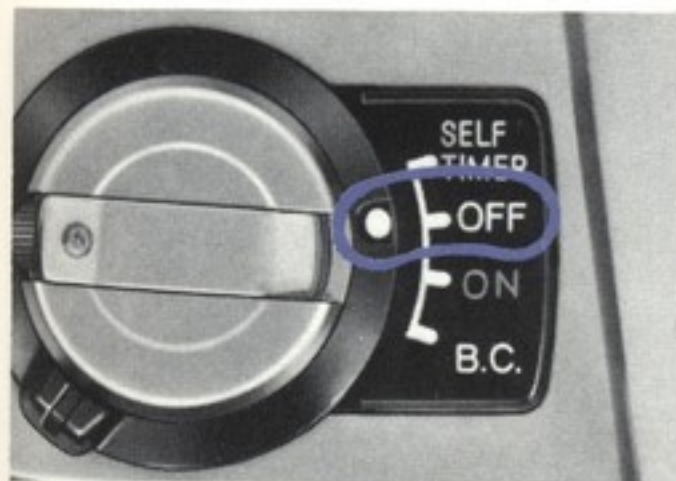
撮影者自身も画面にはいりたい記念写真やグループ写真の撮影をするときには、カメラを三脚などで固定し、セルフタイマーを用いてください。



- 1 フィルムを巻上げピントを合わせます。
- 2 切換スイッチの白い指標をSELF TIMERにセットします。



- 3 シャッターボタンを確実に押し込めばセルフタイマーが作動し、カメラ正面のセルフタイマー作動表示ランプが点滅し始めます。シャッターの切れる約2.5秒前になるとランプの点滅が早くなります。



4 セルフタイマーでの撮影を解除したい場合、またはセルフタイマーの作動を中止したい場合は、切換スイッチをOFFにします。

5 セルフタイマーの撮影が終わったら、切換スイッチはOFF、またはONにします。

- セルフタイマーはB (バルブ) の位置では作動しません。
- フィルムの巻上げが完全でなくてもシャッターボタンは押せますが、セルフタイマーはスタートしません。そのときはシャッターボタンから指を離し、もう一度完全に巻上げてください。

★自動露出撮影で、もしセルフタイマーの作動中にシャッター速度が1/1000秒以上になるとセルフタイマーの作動が止まり、その状態で再度1/1000秒以下になると新たにセルフタイマーが作動し始めます。セルフタイマーは作動させる前にシャッター速度をチェックして1/1000秒付近でしたら、絞りを1段または2段絞り込んでください。



★セルフタイマーを使って自動露出撮影をするときは、ファインダーからの逆入光を防止するために、必ず付属のアイピースキャップをアイピースの両側のみぞにはめ込んでから撮影してください。

フラッシュ撮影

オートエレクトロフラッシュ200Xを使用する場合

オートエレクトロフラッシュ200Xは、カメラ制御用出力端子を備えており、フラッシュの充電が完了すると、ファインダー内のシャッター速度目盛60の横のLEDを点滅させ、フラッシュ発光準備を知らせ、シャッターを切ると自動的にフラッシュ同調速度1/60秒で露出が与えられるように、カメラを制御します。シャッター速度のセットのし忘れによる失敗写真を防ぐばかりでなく、セットすることのわずらわしさから解放します。

なお、フラッシュが充電完了してないときや電源をOFFにしたときは、発光せずカメラはセットしてあるシャッタースピードダイヤルの位置に復帰します。このほか、Ni-CdチャージャーNC-2に付属のニッケル・カドミウム蓄電池(Ni-Cd電池)をフル充電して使えば、オートワインダーGの毎秒約2コマの連続撮影に追従できる機能も備えています。詳しくはオートエレクトロフラッシュ200Xの使用説明書をご覧ください。



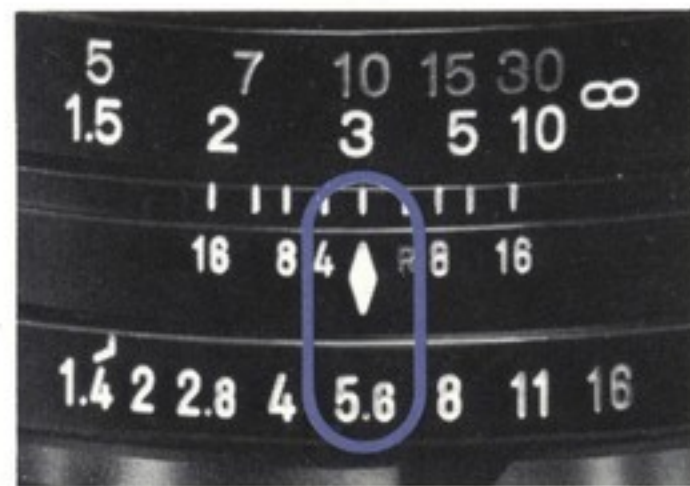
- 1 フラッシュをカメラに取り付けます。
- フラッシュの装着は最後まで確実に押し込み、シューロックネジを締めてカメラにしっかりと固定させます。



2 フラッシュの露出計算盤に使用フィルムのASA感度をセットします。

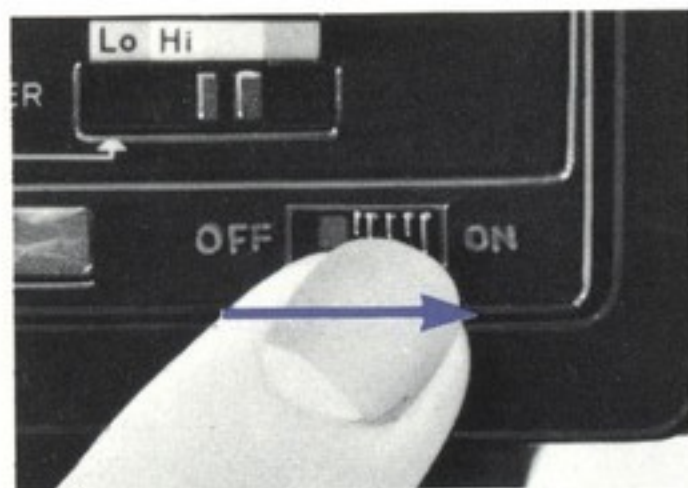


3 フラッシュのモード切換スイッチを使用モードにセットします。

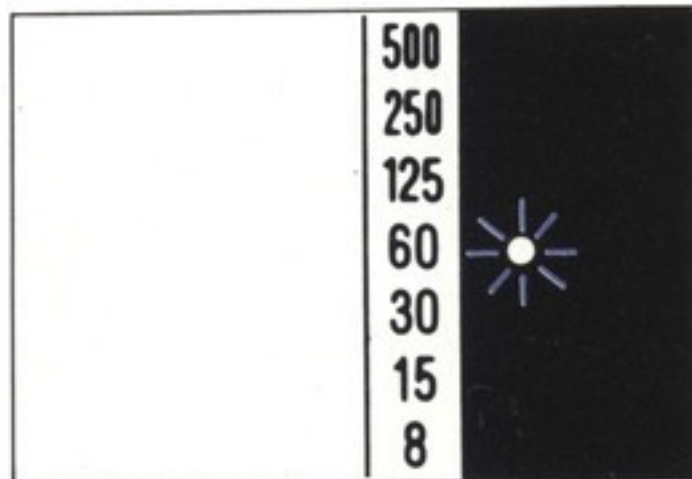


4 絞りをセットします。

- ASA100のフィルムを使用して、フラッシュのモードがAUTOの黄色のときは、F5.6 にセットします。



5 フラッシュの電源スイッチをONにします。



6 充電が完了したことを確認します。

- 充電が完了すれば、シャッターボタンに指が触れたとき、ファインダー内で1/60秒を示すLEDが点滅します。



7 シャッターボタンを押して撮影します。

- シャッターは自動的に1/60秒で切れます。ただし、シャッターダイヤルがBの時はシャッターボタンを押している間はシャッターが開いています。

オートエレクトロフラッシュ200X
以外のフラッシュを使用する場合



1 フラッシュをカメラに取りつけます。

- コード式のフラッシュを使用するときは、シンクロコードのプラグをシンクロターミナルに差し込みます。

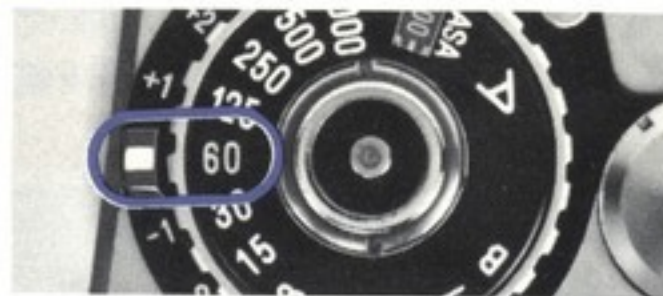
フラッシュ同調表

シャッター速度 使用するフラッシュ	B	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000
エレクトロフラッシュ	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×
M F級 M級 F P級バルブ	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×

絞りの決め方は、次の式から絞り値を求めます。端数がある場合には、それより開放寄りにいちばん近い絞り値で撮影します。

$$\text{絞り値} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{撮影距離}}$$

2 フラッシュ同調表にしたがってシャッター速度をセットします。



- 一般のエレクトロフラッシュの場合は1/60秒にセットします。

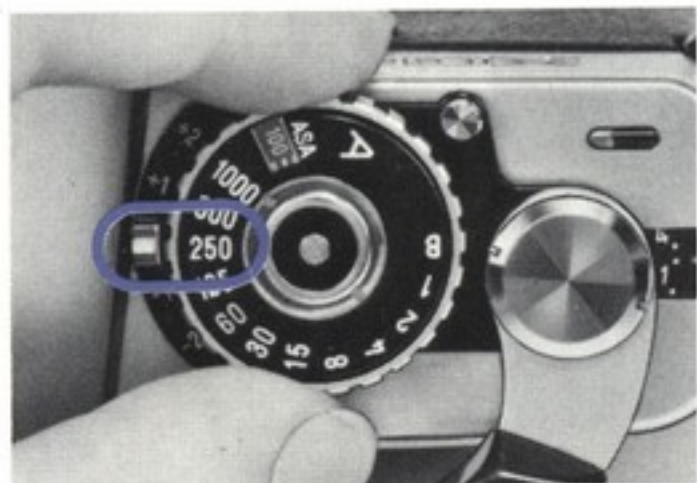
3 フラッシュのガイドナンバーを基準にして絞りを決めます。

- オートエレクトロフラッシュを使用する場合は、その使用説明書にしたがってください。

4 シャッターボタンを押して撮影します。

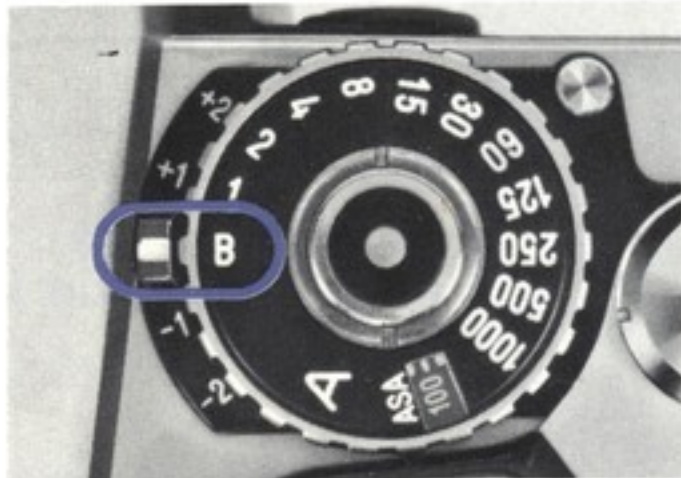
マニュアル撮影

ミノルタXG-Eは自動露出撮影のできるカメラですが、マニュアル撮影も行なうことができます。



1 オートロックボタンを押しながらシャッターダイヤルを回し、撮影するときのシャッター速度（1秒から1/1000秒）をセットします。

- マニュアルでは、ファインダー内にはLEDが表示されません。
- 露出合わせは、単独の露出計または自動露出撮影時の指示を読み取り、絞りとシャッター速度をカメラにセットします。



- シャッターダイヤルのB（バルブ）は、シャッターを切るとシャッターボタンを押している間はシャッターが開いています。シャッターボタンから指を離せばシャッターが閉じます。

★Bでケーブルリリースを使用しているとき、シャッターの開いている途中でケーブルリリースがカメラや三脚の金属部分に触れますとシャッターが閉じますので注意してください。



2 絞りリングを回して、絞り値をセットします。

★Bでシャッターを切る場合、ファインダーからの逆入光を防止するため、必ず付属のアイピースキャップをアイピースの両側のみぞにはめ込んでください。

赤外線撮影(レンズのRマークについて)

1. 白黒赤外フィルムの場合

白黒の赤外線写真は、白黒赤外フィルムとO56またはR60フィルターを用います。赤外線は通常撮影する可視光線よりも波長が長いため、ファインダーでピントを合わせただけではフィルム面でピントが合いません。そのため、ほとんどのロックスコールレンズには、被写界深度目盛のところに、Rで赤外線用ピント補正の位置を示してあります。



赤外線撮影をする場合は、一度フィルターなしでピントを合わせた後、距離目盛の数値をRマーク(赤外線指標)までずらせ、フィルターを取りつけてから撮影します。

- Rマークは赤外波長768nmで設計されたものです。赤外ストロボの中には、Rマークにズラただけでは適合しないこともありますので確認のうえご使用ください。
- 撮影するときは、マニュアルにして、赤外フィルムの使用説明書にしたがって露出を決めてから行なってください。

2. カラー赤外フィルムの場合

カラーの赤外線写真は、可視光線および赤外線の両方によって形成され、通常はレンズの絞りを絞り込んで撮影すれば、ピントの補正をする必要はありませんが、詳しくはフィルムの使用説明書をお読みください。

- カラー赤外フィルムとしては、コダックIE 135-20があります。指定フィルターは、コダックラッテンNo. 12フィルターですが、当社のフィルターY52も使用できます。

付属品および交換レンズを使用する場合の撮影のしかた

ミノルタXG-Eは不変のミノルタバヨネットマウントを継承していますので、焦点距離7.5mmの魚眼レンズから1600mmの超望遠レンズまで、すべてのロッコールレンズが使えます。

付属品を使用したとき

XG-Eに付属品を組み合わせる場合は、下記の表のような撮影のしかたで使用できます。

A：自動露出撮影 M：マニュアル撮影

付属品 \ 使用レンズ	MD ロッコール レンズ	MC ロッコール レンズ	オート プリセット レンズ	ハンド プリセット レンズ
中間リングII	A	A	A	A
ペローズIII	A	A	A	A
リバースリングII	A	A	A	A
クローズアップレンズ	A	A	※	A
MCオート中間リング	A	A	※	A
オートペローズI	M	※	※	A

Aと記入されているところはマニュアル撮影も可能です。

※レンズ側に絞り込み機構のあるものは、撮影する絞り値をセットした後、絞りを絞り込んだ状態でシャッターを切れば自動露出撮影ができます。

レンズ側に絞り込み機構のないロッコールレンズは、マニュアル撮影でご使用ください。

●顕微鏡アダプターを使用する場合は自動露出撮影ができます。

- 付属品を使用して自動露出撮影する場合(■の部分を除く)それぞれ連動範囲内のシャッター速度で行なってください。連動シャッター速度はフィルム感度によって異なり下表のようになります。

フィルム感度	付属品使用の場合の自動露出連動シャッター速度
ASA 25	1 秒 ~ 1/1000 秒
ASA 50	1 秒 ~ 1/1000 秒
ASA 100	1/2 秒 ~ 1/1000 秒
ASA 200	1/4 秒 ~ 1/1000 秒
ASA 400	1/8 秒 ~ 1/1000 秒

★連動外シャッター速度(低速度側)で撮影した場合、露出アンダーの写真になりますのでご注意ください。

MD/MCロックールレンズ

レンズを取り付け、撮影する絞り値をセットすれば、シャッターを切るだけで自動露出撮影ができます。

MD/MCロックールレンズ以外のオートプリセット式ロックールレンズ

レンズ側に絞り込み機構のあるロックールレンズは、撮影する絞り値をセットし、絞りを絞り込んだ状態でシャッターを切れば自動露出撮影ができます。

レンズ側に絞り込み機構のないロックールレンズは、マニュアル撮影でご使用ください。

ハンドプリセット式およびRFロックールレンズ

レンズを取り付け、撮影する絞り値をセットすれば、シャッターを切るだけで自動露出撮影ができます。

★旧オートプリセットレンズの内、一部使用できないものがあります。くわしくは各地サービス・ステーションにご相談ください。

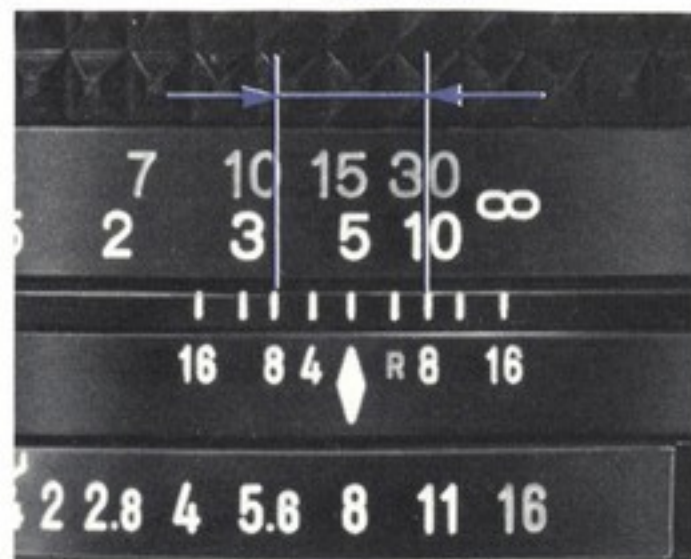
深度目盛

被写界深度を正確に知るためには、レンズのパッケージに同封されている被写界深度表をご覧ください。

また、被写界深度は各レンズの深度目盛でもわかります。たとえば、撮影距離が5mで絞りをF8に合わせてあったとしますと、約3.5~10mまでのものはだいたい鮮明に写ることがわかります。

深度目盛は目測でピントを合わせてスナップ撮影をするときや絞り効果を意図して撮影するときにご利用すると便利です。

ピントの合う範囲



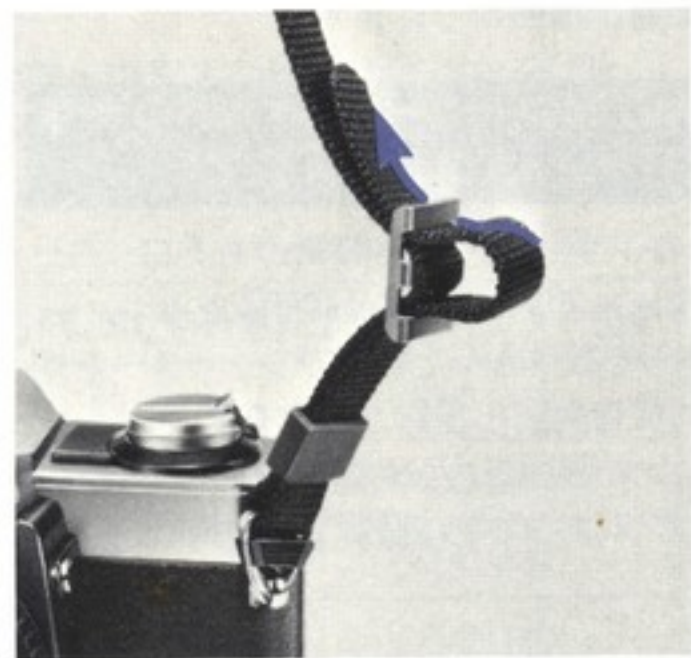
ストラップの取り付け方

ストラップとケースは必要に応じてカメラに取り付けてください。



1 ストラップを肩当てと電池ケースとアイピースキャップに通します。

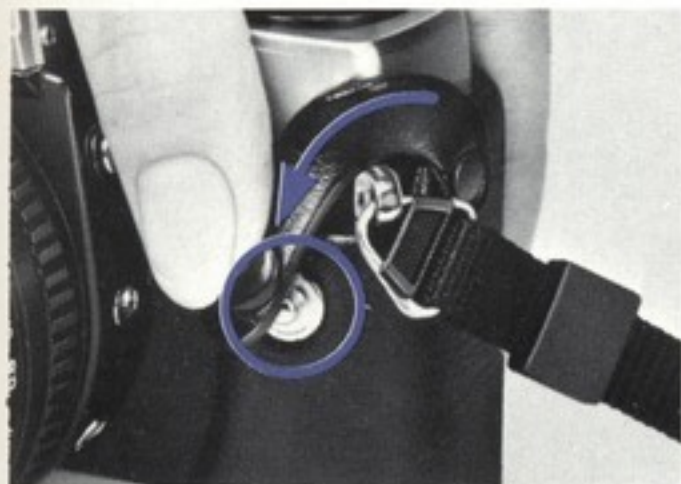
- 電池ケースには予備の電池を2個入れることができます。長期間の旅行のときなどに利用すれば便利です。
- 旅行のときには新しい電池を携帯するように心がけてください。



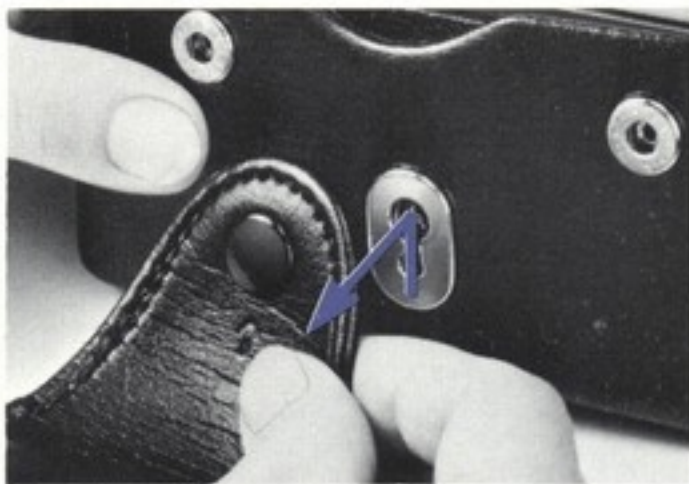
2 ストラップの両端をボディ側の三角環に通して固定します。

- ストラップの長さは肩から下げやすい長さに調節してください。

ケースの着脱



1 カメラをケースに入れ、ケースのフックを三角環にひっかけてスナップを止めます。



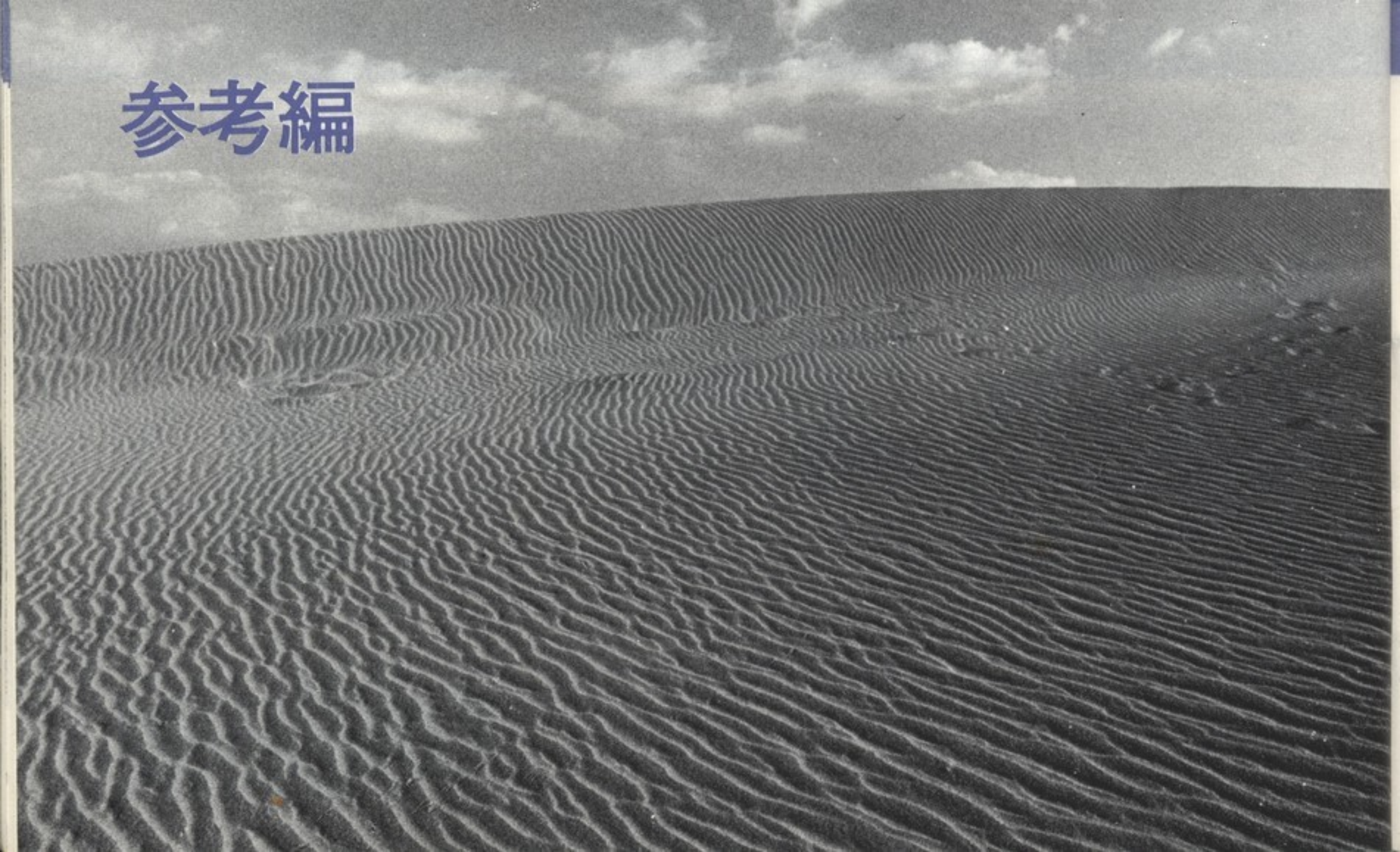
2 前カバーはケース連結金具でケースに取り付けられています。前カバーをケースからはずすときは、上方にスライドさせてから手前に引いてください。

- 前カバーを取りつけるときは、ケース連結金具の突起をケースの穴に差し込み、それから下方にスライドさせます。

- ケースは別販売になっています。

★ケース連結金具をはずすとき、上方にスライドさせずに無理に引っ張ると破損することがあります。

参考編



専用アクセサリ

1. オートワインダー G

オートワインダー Gは、XG-E専用の自動巻上げ装置です。XG-Eに取りつけて使用すれば、常にフィルムが巻上げ状態になり、シャッターボタンを押すと毎秒約2コマの連続撮影や1コマ撮影ができます。巻上げのわずらわしさから解放され作画や撮影に集中できるばかりでなく、常に巻上げ状態にあるため撮影のチャンスを逃がさず、また連続撮影にも非常に便利です。

電源には単3型電池(マンガン乾電池、アルカリマンガン乾電池、Ni-Cd電池)4本を使用します。



2. オートエレクトロフラッシュ200X

オートエレクトロフラッシュ200Xは、自動調光フラッシュで、XG-Eに装着すると充電完了信号がカメラ側に入力され、ファインダー内LEDが点滅表示し、シャッターを切ると自動的にフラッシュ同調速度1/60秒で露出が与えられます。また、モード切換スイッチをM(マニュアル)Lo(ガイドナンバー:7, ASA100・m)にセットして使用すれば、ワインダーに同調して毎秒約2コマの連続発光ができます。(ただし、フラッシュにNi-CdチャージャーNC-2に付属のNi-Cd電池をフル充電して使用するとき)
本器は、発光間隔(リサイクルタイム)の短い直列制御方式を採用しています。
電源には単3型電池(マンガン乾電池、アルカリマンガン乾電池、Ni-Cd電池)4本を使用します。

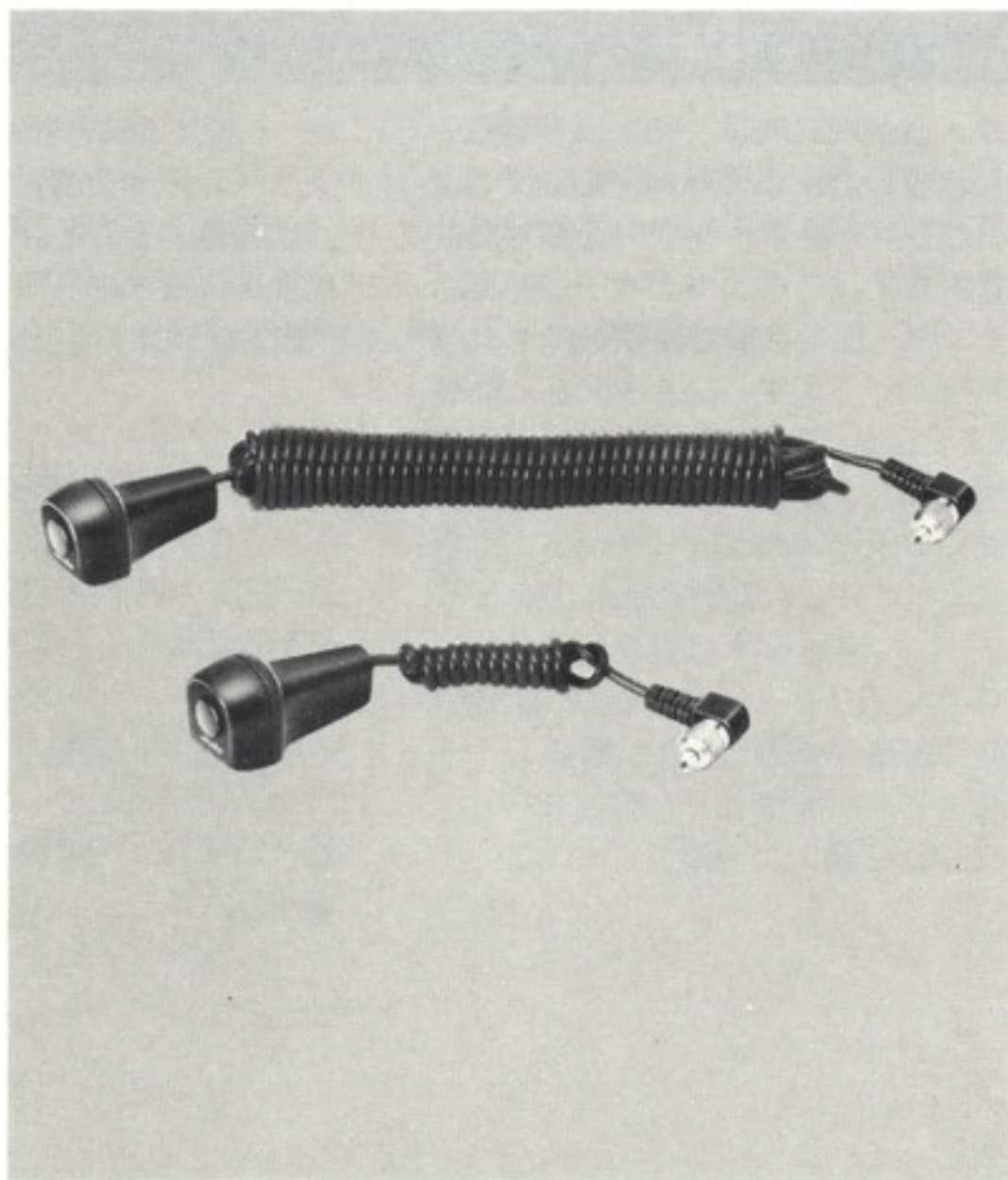


3. リモートコードS・L

ミノルタXG-Eは電磁レリーズを採用していますから、リモートレリーズターミナルにリモートコードを取り付けるだけで遠隔操作ができます。コードの長さはLが5m、Sが50cmです。

リモートコードLは、野外の観察記録(野鳥、動物、昆虫)の撮影で、被写体に気づかれないようにシャッターを切りたい場合に最適です。

リモートコードSは、三脚などを用いてスローシャッターを切るときにお使いください。カメラブレを防ぎたいときに最適です。



4. カメラケースW

カメラケースWは、ミノルタXG-EにオートワインダーGを装着したままの状態でも収納できるカメラケースです。カメラからオートワインダーを取り外すことなく携帯することができます。(このカメラケースWは、ミノルタXDにオートワインダーDを装着した状態でも共通して収納できます。)



カメラの手入れと保存の方法

1. 手入れのしかた

- ①カメラの清掃はからぶきで
カメラはほこりをきらいます。ときどき、カメラの清掃をしてください。まず、ブロアーでほこりを吹きとばし、次に柔らかい清潔な布でよくふいてください。カメラボディにシンナー、ベンジンなどの溶剤は絶対に使用しないでください。
- ②レンズの清掃はレンズクリーナーで、レンズは絶えずよごさないように注意してください。もし、誤ってよごした場合、ブロアーでほこりを除き、清潔な布で軽くふきとってください。それでもよごれがとれないときには、レンズクリーニングペーパーに市販の液体クリーナー（コダック製、富士フィルム製など）を極く少量つけて軽くふきます。
液体クリーナー以外は絶対に使わないでください。

- ③ミラーには手を触れないでください
小さなごみやよごれがあってもミラーの機構には影響がありません。手でミラーを上げ下げすることは微妙な調整をくずすおそれもありますのでご注意ください。
- ④有機溶剤を含んだ布でボディのパヨネット座板面をふくと、潤滑剤がとれてレンズの着脱が重くなりますので、汚れた場合は清潔な布で軽くふき取るだけにしてください。ご使用中にレンズの着脱が重くなった場合は最寄りの各地サービスステーションにご相談ください。ご自分でパヨネット座板面に潤滑剤を塗る場合は、清潔な布にオリーブ油を極少量含ませて薄く塗ってください。

2. 保存のしかた

- ①2週間以上使用しないときは
必ず電池を取り出しておいてください。電池の漏液でカメラを害することがあります。
- ②カメラの保存場所は
高温・多湿のところやほこりっぽいところは避け、風通しの良いところに保管してください。乾燥剤（シリカゲルなど）といっしょにかんの中にしまっておくとより安全です。
- ③カメラを持ち運びするとき
自動車のリアウインドやトランクの中などに放置すると、極度の高温になり、カメラを故障させる場合がありますので、このような場所には置かないでください。

おもな性能

カメラタイプ	電子制御式35mmフォーカルプレズシャッター付一眼レフAEカメラ
使用フィルム	J135 ロールフィルムバトローネ入り
画面サイズ	24×36mm
レンズマウント	ミノルタバヨネットマウント
標準レンズ	ミノルタMDロッコール50mm F1.2、ミノルタMDロッコール50mm F1.4・ ミノルタMDロッコール50mm F1.7
フォーカシングスクリーン	中央部スプリットマイクロプリズム式
ファインダー視野率	93% (標準画面24×36mmに対して)
ファインダー倍率	0.9倍 (50mm標準レンズ∞のとき)
ファインダー内表示	シャッター速度目盛、露出表示LED、連動外警告LED、フラッシュ充電完了シグナル
測光方式	開放測光TTL、中央重点的平均測光
自動露出範囲	EV2～EV17 (ASA100 F1.4レンズのとき)
フィルム感度範囲	ASA25～ASA1600
露出補正装置	標準値より±2EV (無段階) の範囲で補正可能
シャッター	電子制御式フォーカルプレズシャッター
シャッター速度	オート：1秒～1/1000秒 (無段階) マニュアル：1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/15, 1/30, 1/60, 1/125, 1/250, 1/500, 1/1000秒、B (バルブ)
シャッターレリーズ	電磁レリーズ、電池電圧低下時と1/1000秒を越えた高速時にシャッターレリーズロック
セルフタイマー	シャッターボタンによるスタート作動時間約10秒
フラッシュシンクロ	X接点エレクトロフラッシュ：1/60秒より低速度に同調 フラッシュバルブ：1/15秒より低速度に同調
アクセサリシュー	ダイレクト接点、シンクロオートコントロール接点 (専用のミノルタオートエレクトロフラッシュ200X用)、感電防止装置付
シンクロターミナル	JIS-B型ソケット
フィルム巻上げ	一作動レバー巻上げ式、巻上げ角130° 予備角30° オートワインダーG装着可能
フィルムカウンター	自動復元順算式
フィルム巻きもどし	巻きもどしボタン、巻きもどしクランクによる方式、巻きもどしボタン自動復元

ミ	ラ	ー	スライドアップ式クイックリターン
裏	ぶ	た	裏ぶた開閉ノブ引上げ式、ワンタッチロック式、着脱可能
使	用	電	池
電	源	ス	イ
測	光	ス	イ
バ	ッ	テ	リ
そ	の	他	
大	き	さ	
重	量	(
専	用	付	属

●ここに記載の性能および製品の仕様・外観は都合により予告なしに変更する場合があります。

ミノルタカメラでは、ご愛用のみなさまからのご質問、ご相談、カメラ修理、その他アフターサービスなどいっさいを承りますために、各地にサービス・ステーションを設けております。詳しくは、「アフターサービスのご案内」に記載しておりますので、ご参照ください。

Minolta

ミノルタカメラ株式会社

〒541 大阪市東区安土町2丁目30番地 (大阪国際ビル)

☎(06) 271-2251(代)

〒105 東京都港区浜松町2丁目4番1号 (世界貿易センタービル)

☎(03) 435-5511(代)